

第9回まほろば新そば祭り 報告

ならやま・そば文化クラブ 寺田 孝

11月29日、第9回目の「新そば祭り」がにぎやかに開催された。秋晴れの下、暖かく絶好の日和に、83人が参加する大盛会となった。

新そばは、えりすぐりの4名が早朝から3キロずつ自宅で打って持参した。一方、会場でも、田辺師範以下3名が実技をご披露する。「とれたてひきたて」の新鮮さが命と、心を込めて打ち上げた新蕎麦170人分が準備された。

会場では「新そば始めました」の看板がムードを盛り上げ、今年も「ならやまの景観形成活動とそば」をテーマに、写真パネルが展示される。その前で往時を語りあう人、ひとりで見入る人、初めてならやまの原風景に出会う人等にぎわった。

11時30分、そばゆで開始。まきのかまどは火力全開、もうもうと湯けむりをあげる大釜から、ゆであがるそばを冷水で洗い、氷水で絞めて大ざるに盛る。このあたりからは秒単位の勝負である。



12時に祭り開始。シニア自然大学校25周年記念式典に出席された鈴木会長に代わり、八木副会長から開会のあいさつがある。祝いの一句をご披露。

新蕎麦の香りかぐわし宴かな

古川そばクラブ会長から謝辞があり、いよいよ、今年の新そばの賞味がスタート。

配膳場に長蛇の列。手早くそばを盛りつけ、野菜天ぷら、辛味大根、薬味を載せる。すべて「ならやま産」である。立ったまま食べ始める人、席に座っておもむろに箸をとる人。最初は全く声がない。反応に聞き耳をたてるそばクラブのメンバー。あちこちで、「うん、おいしい」「最高」のささやきが聞こえてくる。蕎麦打ちにとって最もうれしい一瞬である。

ぶっかけそばのあとは、暖かい「ニシンそば」「そば雑炊」と続く。変わり種の「そば粉ネギ焼



き」も好評。作り手と食べ手の間にエールが交わされ、ますます盛上って、祭りは最高潮に。

恒例の「新そば収穫重量当てクイズ」の表彰が始まる。晴れの優勝者は平田範光さん、準優勝は坂東久平さんである。上位入賞者10名には、田中克彦さん手作りの来年の干支の置物の賞品がわたされ、また、上位3名には、クラブの「歳末そば打ち会」へのご招待が披露された。

締めくくりのあいさつは阿部さん、「おいしい自然の恵みを満喫した」との賛辞で、「第9回新そば祭り」はめでたくお開きとなった。

「新そば祭り」は今回9年目を迎えた。種まき、刈り取りには共同作業として、皆さんが参加され、祭りに当たっては多くの方々にご協力をいただいた。「ならやまの年間行事」として大いに盛り上げていただき心から感謝したい。

追記

そば祭り収支差額は5,692円。そば粉残量はそばクラブにて買取り4,944円。合計額10,636円は12月7日「ほのぼの基金」へ入金された。